

1. 評価結果概要表

作成日 2008年4月25日

【評価実施概要】

事業所番号	1473800603
法人名	社会福祉法人 ふじ寿か会
事業所名	グループホームそまやまの里
所在地	横浜市都筑区川和町1813 (電話) 045-949-3026

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	横浜市港北区新吉田東5丁目76番地35号		
訪問調査日	平成20年3月21日	評価確定日	平成20年5月7日

【情報提供票より】(平成20年1月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年	3月	1日
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	23 人	常勤	3 人, 非常勤 20 人, 常勤換算 7.6

(2) 建物概要

建物構造	木造り
	1階建ての 1階

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	62,500 円	その他の経費(月額)	24,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(119,000 円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要(1月20日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	1 名	要介護2	6 名		
要介護3	8 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2			
年齢	平均 86 歳	最低	75 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団 一成会 たちばな台病院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

☆市営地下鉄グリーンライン川和町駅から程近い閑静な住宅地に立地し、木造平屋建ての一般住宅風の建物で周囲に溶け込んでいる。季節の花が咲く中庭にはパラソルやベンチが置かれ、日光浴とくつろぎの場になっている。
 ☆利用者が安心して生き活きと生活できる支援を目標に、職員は居室担当制を採り、入所経緯から現在までの詳細な情報を基に介護計画を作成し、利用者一人ひとりがありのままに、家庭での生活と同じような暮らしができるように援助している。
 ☆職員教育面では、内部研修と同一法人内4グループホームの相互研修、外部研修に全職員が積極的に参加し、サービスの質の向上にむけてスキルアップを図っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の指摘事項は「注意の必要な物品管理」であり、職員は、厨房への利用者の立ち入りについて目を配り、危険な状態にならないように常に気を付けている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 4回目の受審であり、職員は評価の意義を理解して自己評価に取り組み、ユニット会議で検討して管理者がまとめた。今回の自己評価の取り組みを通して、現状のサービスを再検討することができ、基本に立ち返り、改善に取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5)
	2月に4回目の運営推進会議を開催し、事業所からは①現状報告②外部評価受審への取り組み③年間行事のお知らせ④地域の方へのボランティア参加と災害時の地域協力体制づくりのお願いなどについて説明した。地域からは住民向け学習会(食品衛生について、成年後見制度について)の要望が出された。ボランティアについては既に受入が開始され、地域住民への学習会は当事業所内で開催している。災害時の地域協力体制については、これからの取り組みとしている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族とのコミュニケーションを大切に、家族が意見を出し易い関係を持っている。2ヶ月に一回開催の家族会では、家族同士での意見交換ができる仕組みを作っており、出された意見はカンファレンスで検討し、サービスの質の向上に努めている。出された意見とそれへの対応は、家族に対して文書報告を行っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	利用者は自治会に加入し、回覧板で地域の行事予定を知り、夏祭りや敬老会に参加している。近隣の方々とは散歩時に挨拶をし、日常的に会話を交わしている。事業所の行事の時は、地域の方々のボランティア協力(フラダンスやハーモニカの演奏)を得ている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・法人の理念とは共に、事業所独自の運営方針「一人ひとりの生活作り」を基に、利用者一人ひとりを尊重し、理解を深めることを通して、利用者が安心して生き生きと生活できるための支援を行っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・各ユニットの玄関に運営方針を掲示している。 ・管理者と職員は、毎月のカンファレンスや日々の朝、昼、夕の申し送りで、理念に添った対応となっているかを振り返り、実践できることは即対応し、具現化に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・利用者は自治会に加入し、回覧板で地域行事を知り、夏祭りや敬老会に参加している。 ・利用者が散歩するときは、近隣の方々に挨拶して、日常の会話を交わしている。 ・事業所の行事には、地域のボランティア協力を得て、フラダンスやハーモニカ演奏をしていただいた。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・職員各自が評価の意義を理解して自己評価に取り組み、ユニット会議で検討して管理者がまとめた。 ・自己評価に取り組む過程で、よりよいサービスのための基本(問題点はその都度話し合うなど)に立ち返り、改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・2月に4回目の運営推進会議を開催、事業所からは①現状報告②外部評価受審への取り組み③年間行事のお知らせ④地域の方へのボランティア参加と災害時の地域協力体制づくりをお願いした。地域からは住民向け学習会(食品衛生について・成年後見制度について)の要望が出された。ボランティアについては協力を得、学習会は法人ふじ寿か会から講師を呼び実施した。		

そまやまの里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・都筑区から地域介護教室事業を受託し、法人ふじ寿か会から講師を呼び実施した。 ・利用者の案件で都筑区福祉保健センターと緊密に連携を図り、サービスの向上を図るための情報収集に努めている。 		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・家族の来訪時に利用者の健康状態について説明している。利用者に変化が生じた時は、その都度報告している。また、3か月に一回発行の「里だより」で利用者の暮らしぶりや季節ごとの行事の様子を伝えている。 ・2か月に一回の家族会で、諸費用や介護計画について詳しく説明している。 		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・家族が意見を出しやすくするために、家族とのコミュニケーションに気を配っている。 ・家族会では家族同士での意見交換ができる仕組みを作っており、出された意見はカンファレンスで検討し、受け入れられるものは受け入れ、その結果は家族に文書で報告している。 	○	日常的に家族が意見を出し易い関係が築かれていますが、より一層意見要望を吸収する方法として、ご意見箱の設置をご検討ください。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の異動は少なく、利用者や職員は馴染みの関係になっている。 ・異動に伴う職員の交代は、1ヶ月の引き継ぎ季刊(利用者との人間関係の醸成)を持つことにしている。 		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<ul style="list-style-type: none"> ・新人には、事業所内研修と法人の研修がある。 ・管理者は職員の勤務調整を図り、法人内研修およびグループホーム協会主催の研修に毎回希望者が参加している。研修後、カンファレンスで内容を報告し、職員全員で共有している。 		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・グループホーム協会主催の一日交換研修に今年度は3名参加した。職員は他の事業所を訪問研修することで、日常業務の振り返りや気づきができて、サービスの質の向上に役立っている。 		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・管理者が、入居希望者の家庭を訪問してグループホームについて説明をし、本人と家族の希望や不安を詳細に聞き取るようにしている。また見学に来てもらい、本人が納得して入居するようにしている。 ・入居後は、利用者が徐々に馴染めるように、職員全員が利用者の情報を共有し、信頼関係の構築に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・掃除、食事の盛り付けや配膳、洗濯物たたみ、庭の手入れなど、利用者の得意分野で力を発揮できる場面を作り、利用者と職員が共に支えあう関係を築いている。「何かすることある？」と声を掛けてくる利用者もいる。 ・職員は浴衣の帯の結び方を教えてもらったり、様々な場面で生活の知恵や工夫を学んでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・入所時のアセスメントを基にケアプランを作成し、居室担当職員が利用者や家族と会話する機会を多く持つて、本人の希望や意向を把握している。 ・意思疎通が困難な利用者の思いや意向は、しぐさや表情を見て把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・利用者の入居時から現在までのアセスメント(センター方式採用)、ケース記録、業務日誌を基に、カンファレンスで検討し、利用者の状況を確認し合い、介護計画を作成している。 ・介護計画には、家族の意見・要望やかかりつけ医からの助言を取り入れている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・介護計画は、通常2ヶ月に一回見直している。 ・介護計画で対応できない変化が生じた場合は、本人や家族と話し合っ、現状に即した見直しを行い新たな介護計画を作成している。		

そまやまの里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・かかりつけ医への通院に付き添ったり、デパートへの買い物など家族や本人の要望に沿って柔軟に支援している。 ・法人内のグループホーム合同で一泊旅行を行い、生活を楽しむ機会を設けている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・在宅医療クリニックと歯科医の往診が2週間に1回ある。 ・利用者と家族の希望によるかかりつけ医受診を支援し、付き添いの家族には事前に利用者の身体状況を報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・管理者が入居時に終末期の介護についての基本姿勢を家族に説明し、認識を共有している。 ・重度化した場合、再度家族と話し合っって方針を決め、医師との連携をとりながら職員全員で確認し合い、チーム支援に取り組む準備をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・玄関に個人情報保護に関する基本方針を掲示し、職員は入社時にプライバシー保護について研修を受けている。 ・フロアでは利用者の個人的なことは話さないことを徹底し、個人情報に関する書類は事務室で施錠管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・利用者一人ひとりのアセスメントや本人の希望、家族からの情報を踏まえて、その人らしい暮らしができるように、職員はその日の体調を見ながら、利用者のペースに合わせて支援している。 ・午前中は散歩に、午後は買い物に誘うなど、本人の状況に合わせて支援している。		

そまやまの里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・日常の会話の中で食べたいものを聞き出し、献立に取り入れている。職員は、家庭での食事作りと同じように利用者が野菜切りや味付け、味見、盛り付け、配膳を楽しみながら参加できるように配慮している。 ・食事は職員も一緒に食べながら、さりげなく介助している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・入浴支援は隔日の午後3時以降と夕食後、好みの時間帯に行っている。毎日の入浴希望にも対応している。 ・入浴を好まない利用者にはさりげなく誘導したり、清拭や洗浄で清潔を保ち、気持ちよく生活できるように工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・利用者が調理や草花の水遣り、庭木の手入れ、日曜大工など一人ひとりの得意分野で力を発揮し、張り合いと喜びのある生活が送れるように支援している。 ・毎月の誕生会や季節ごとの行事(初詣、節分、花見、夏祭り、夕涼み会、敬老会、芋煮会、クリスマス会など)を工夫し、楽しみと気晴らしの支援に努めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・天気の良い日の午前中はホーム周辺を散歩(車椅子での散歩も支援)し、希望する利用者は午後、食材の買出しに同行している。 ・ドライブや外食など車での遠出や季節ごとの戸外での楽しみを支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・日中、玄関や門には鍵を掛けないケアに取り組み、利用者の所在確認の徹底と外に出たい利用者の気分を切り替える言葉掛けやベランダへの誘導などその人に応じた支援をしている。 ・各居室からウッドデッキのベランダへ出るガラス戸も自由に入出りできるように施錠していない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・災害時の対応マニュアルがあり、協力機関への連絡を明記している。ヘルメットや防災頭巾(入居者18名分)、非常食3日分を常備している。 ・法人内での防災訓練は実施しているが、事業所独自では今年度未実施である。	○	事業所独自の防災訓練を定期的(年1~2回)に実施することを期待します。

そまやまの里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・水分摂取量は概ね1000cc/1日を目安にしており、入居間もない方や医療機関より指示のあった利用者についてチェック表に記入している。 ・献立は栄養バランスを考えながら、利用者の嗜好を取り入れて作成している。利用者の状態に合わせて刻み食やとろみをつけ、糖尿病食にも対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・リビングは吹き抜けで、大きな窓からは近隣の庭木や草花が眺められて、程よい明るさで、掃除も行き届き、居心地よく過せる場所になっている。また、畳の間は家庭的で落ち着いた雰囲気になっている。 ・廊下は幅が広く、ところどころに長椅子や下駄箱を利用した腰掛が置かれ、利用者が一休みしたり一人になれる空間を工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・利用者は、馴染みの箆笥や机、椅子、仏壇、テレビその他自分の思いがこもった品などを持ち込み、趣味の作品や家族の写真を飾って、居心地よい居室作りをしている。 ・折り紙や木彫りの好きな利用者は、居室で作品作りに励んでいた。		

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>入居者一人ひとりの気持ちに寄り添い、同じ目線で接することを理念の一つとして取り組んでいる。</p>	<p>○</p> <p>今後も、地域に密着した独自の理念を念頭に、その人らしい暮らしができるよう支援していきたい。</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>管理者、職員が目にするところのできる場所に理念を掲げ、日々実践できるよう取り組んでいる。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>家族会・ホーム便り・地域との会合などで、事業所の理念を理解してもらえるよう取り組みをしている。</p>	<p>○</p> <p>老人会などの入会はできないが同じ地域の施設間で交流ができればよいと思う。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>日々の挨拶で積極的に交流を持ち、季節ごとのイベントなどにも参加して日常的な付き合いができるよう努めている。</p>	<p>○</p> <p>学校や商店とも交流を持ち、ホームに立ちよってもらえるような関係を築いていきたい。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>町内会に加入し、地域活動・行事に参加することで交流を深めている。</p>	<p>○</p> <p>地域でのボランティアなどにも参加できると良い。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	管理者が地域での研修や啓発に参加し、高齢者の不安やプライバシーに配慮しながら話し合いをする機会を設けている。	○	今後も、地域全体に浸透できるような具体的な取り組みをしていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を行うことで自己の取り組み方を見つめ直し、評価で見出された課題について管理者・職員全員で取り組んでいる。	○	運営者、管理者、職員での話し合いをさらに深めていきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	8月の会議を第一回とし、概ね2ヶ月に一度運営推進会議を行い、参加メンバーからの質問、意見、要望を受け、そこでの意見を話し合い、サービス向上に活かしている。	○	回を重ねることにより具体的な話し合いを行いサービスの向上をはかっていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当窓口に対して事業所の実情やサービスの取り組みを伝え、質の向上に取り組んでいる。	○	今後も継続していきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員は研修などで学ぶ機会を設け、話し合いのもと情報提供し活用できるよう支援している。	○	今後も学ぶ機会をさらに増やし、個々の必要性を浸透させていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	研修などで学んだ知識を会議で伝え、虐待防止についての重要性を日々話し合っている。	○	虐待が行われないような環境作りも具体的に話し合い、職員間に浸透させていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書などの書面にそって説明をし、不安、疑問にはその場で説明して納得していただいている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者とのコミュニケーションを図りながら、その都度意見や、不満、苦情に耳を傾け、職員間で話し合い運営に反映させている。	○ 外部へ表せれるような機会は具体的にはないため、設けたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	健康状態などは面会時に家族にその都度報告をし、金銭管理や職員の異動等は家族会で報告をしている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見、不満、苦情は書面にて報告書を作り、職員間で話し合い運営に反映させている。	○ 外部へ表せるような機会は具体的にはないため、設けたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度会議を行い職員からの意見を聞き、事業所にとっての決定事項なども報告している。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	勤務表作成の際には職員の希望の休暇も考慮し、柔軟な対応が出来るよう調整している。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	できる限り異動や離職抑える努力をしている。	○ 職員の私生活や、事業所としてのやむを得ない理由もあり、異動や離職が続くこともある為、今後さらに、利用者へのダメージを防ぐ配慮を考えていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>定期的に研修や勉強会を行い、参加した職員からはレポートの提出を求め、会議などで全職員に共有できるよう発表してもらっている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>職員の同業者との相互訪問等の活動は年に一度ほど行い、管理者も地域での勉強会や交流会に参加している。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職場以外での職員の交流会も定期的に行い、ストレスの軽減に努めている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員の努力や実績を把握し、健康診断なども定期的に行い心身の健康を保つ努力をしている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ケアを行っていくうえで本人の思いや不安を受け止め、書面に残すことで状況を把握している。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族との会議を定期的に行い、訪問時などにも交流をもち信頼関係をつくる努力をしている。</p>	<p>○ 家族が遠慮している部分もあるため、さらに信頼関係を築きニーズを把握していきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	すぐに対応できることは早急に取り掛かり、出来ないと思うことでも最善の対策を練って対応に勤めている。	○	地域包括支援センターや地域のケアマネジャーとの連携をもっと密に行い支援できるようにしていきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前にホームを見学していただくなどの配慮をし、できる限り本人の心理的不安を取り除く努力をしている。	○	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者にもホームの一員として、家事や掃除、できる限りの活動に参加していただき、ともにホームでの生活を送っていきけるよう、支えあう関係作りに努めている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族にもホームの一員と感じていただき、共に本人を支えていく関係を作りたいが、家族の遠慮があることも事実である。	○	家族自身の「助けられる人」という気持ちを取り除き、一緒に考えていける関係作りを行っていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ホームでの行事に家族も参加していただくなど、できる限り暮らしや介護に関わってもらえる場面作りをしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙や電話などでの交流はたまに行われている。	○	知人、友人に会いに行ったり訪問してもらおう等の支援が少ないため、今後そのような支援ができればいいと思う。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係を常に観察し、仲の良し悪しに配慮してトラブルなどがないよう、細心の注意をしている。	○	どうしても気の合わない利用者もおり、ある程度のグループに分かれてしまうことがある為、できる限りそのような部分を払拭していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了後も手紙や電話での交流を持つことがあるが、直接的な関係や付き合いをもつことはなかなか出来ていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望を日々の暮らしの中から聞きだし、ケアをしていく上で書面に残しできる限りの支援をしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の生活歴や馴染みの暮らし方などは可能な限り情報を集め、家族からも小さな事柄でも情報を伝えてもらい、本人の全体像を知る取り組みを書面にも残しながら把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の暮らしの中から本人のできること出来ないことを把握し、書面にも残しながら総合的に把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の意見や希望などを多く取り入れた介護計画を作成できるよう努め、それについて家族とも話し合いの場を設けている。	○	本人の介護計画作成に当たり、家族からの情報や希望をさらに反映させていきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に介護計画を見直し、変化が生じたときはその都度現状に即した新たな計画を作成している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の勤務の中で記入した個別記録を振り返り、情報を共有しながら日々の支援に反映させている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	現在は多機能性を活かした支援は出来ていない。	○	今後必要性や要請があれば多機能性を活かした支援もしていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアの方にはよく協力していただき、催しを行っている。	○	警察、消防、文化・教育機関との連携をさらにとっていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要性に応じて他の施設のサービスを利用できるよう申し込みや、申請を行っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要性に応じて本人本意の支援が出来るよう連携をとり協働している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望に沿った医療機関との関係を築きながら情報の伝達方法なども密に話し合っている。		

そまやまの里(かえで)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の専門医はいないが、往診により診断や治療を受けられるよう支援している。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員はいないが、往診での看護師や医師との連携をとり、医療活用の支援をしている。	○	ホーム内に看護しをおき、緊急時の対応などがさらにスムーズになるような体制も出来ればよい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	病院関係者、家族との情報交換や相談は蜜に行い、早期退院に努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族には書面などでも説明し、同意を得ている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化や終末期に向けて医師や家族、職員間でも十分話し合いを行い、他の利用者への影響も踏まえて対応をいている。	○	重度化や終末期に対する知識を得られるような研修などを今後多く取り入れていきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	移行先先との情報交換を蜜に行い、リロケーションダメージの軽減に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	本人の自尊心やプライバシーを傷つけないような対応を心がけ、職員間でも常に話し合い細心の注意をしている。	○ 「プライバシーに関することを話さない」ということに関して具体的な対策があると良い。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日々の生活の中で常に本人の希望を聞き、小さなことでも本人の了解をとって行動するようにしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限り本人のペースを尊重していきたいが、どうしても職員側の決まりや都合を優先せざるを得ない場面もある。	○ 「本人のペースでよいこと」「職員側の都合に合わせざるを得ないこと」の判断について今後さらに話し合っていきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人や家族の意向に沿って希望の身だしなみやおしゃれが出来るよう支援できている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な限り利用者にも献立作り、調理、片付けを行っていただき、利用者の意思や気持ちを大切にしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	一人ひとりの利用者の嗜好を把握し、「タバコは決まった場所で吸う」などの周りへの配慮も行っている。	

そまやまの里(かえで)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、「オムツではなくパッドのみの使用」や「ポータブルトイレの使用」などで、できる限りトイレでの排泄を心がけている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	現在は決まった時間での入浴となっているが、利用者の希望に沿った入浴は出来ている。	○	朝風呂や夜間の入浴に対する対応もできれば行ってきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	家族、医師、利用者本人とも相談しながらその時々に応じた支援を行なっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	散歩に出て季節の移り変わりを感じてもらったり、掃除や調理など、本人の力を活かした支援を行なっている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現状では所持している方はいないが、買い物時など必要に応じて本人が使えるよう支援している。	○	今いる入居者の中にも自分で管理できる方がいるかも知れないため、所持させてみたいと思う。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ほぼ毎日のように散歩に出てはいるが、一人ひとりの希望に完全には沿っていない。	○	団体での行動では行けない所もある為、個人の希望に沿うために今後も個別の外出を増やしていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	同上	○	同上

そまやまの里(かえで)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	一部の利用者ああ者は手紙のやり取りをしている。電話は利用者が直接かける事はないが、外部からの電話は受けている。	○	利用者の馴染みの人の把握をし、職員側から促していけるようになると良い。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	来訪時はお茶やお菓子を出すなどしてゆっくりと過ごしていただいている。	○	利用者の方と一緒に食事をしたり、入浴したり、宿泊できるような環境と雰囲気作りが出来るとう良い。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修などで学ぶ機会を設け、職員間でもその都度説明をしている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠をせず、職員間の見守り連携を行っている。	○	近所の方との見守り連携をもっと強化していきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員が一つの場所にかたまったり、利用者のいるフロアに職員がいなくなることを避けるよう日々声をかけあい利用者の所在や様子を把握できるように努めている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	本人の状況に合わせて注意が必要な物品は何かを職員が把握し、刃物などの使用時は職員の目の届く範囲で使用してもらっている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	想定される事故の防止、対応方法は職員間で話し合っている。事故やヒヤリハットの報告記録は保存され、具体的防止策を検討し共有している。		

そまやまの里(かえで)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	研修や勉強会などで、緊急時の対応を学んでいる。	○	いざという時になかなか発揮できないため、研修や勉強会をもっと沢山行ってほしい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防訓練などを定期的に行い、非常用食料や備品も完備している。	○	同上
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	起こり得るリスクについて職員全員で共有、把握し、定期的な見直しも行っている。家族には家族会や面会時にその都度説明している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェックだけに頼らず、利用者本人の顔色や様子を観察し、変化やサインは報告するとともに、簡潔に記録している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤の早見シートを用意し、状況の変化を家族や医師に提供、相談している。	○	現在使用している薬以外も出来るだけ把握し、目的、副作用、用法、用量についてさらに理解を深めていきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	一人ひとりの便秘の原因を理解し、自然排便できるようメニューや食材を工夫している。自然排便が出来ない方にはやむを得ず薬を使用しているが、個別に用法、用量を取り決めていく。	○	自然排便ができるための献立作りや、マッサージ法などの勉強会をもっと行っていきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	支援の必要な方には確実にしているが、自立されている方は声かけのみで確認できていないことがある。	○	口の中の手入れの必要性を職員全員が理解し、毎食後何らか口腔ケアの支援を行ってほしい。

そまやまの里(かえで)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの嗜好を把握し献立にも取り入れているが、栄養摂取総量は把握しきれていない。	○	栄養の専門的な観点からチェックしてもらえるような協力があると良い。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	うがい、手洗いなど毎日の取り決めがあり、研修や勉強会等で新しい知識や技術を学んでいる。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	生ものは季節により使用しない、残った食材には日付を書き早めに使うなどの取り決めを作り実行している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	中庭には花の鉢があり、出入りしやすい明るい雰囲気になっていると思う。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	本や、行事の際の写真、毎日の新聞がおいてあり自由に読んでいただけるようになっている。洗面所やトイレも明るく、カレンダーなどで家庭的な雰囲気作りをしている。	○	生活感はあるが、季節感をもう少し取り入れていきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中でもソファやテラス、台所の椅子など、利用者同士の関係性も配慮しながら過ごせる居場所作りを工夫している。		

そまやまの里(かえで)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人の馴染みの物、使い慣れたものを持ってきていただき、今までの生活と変わりなく暮らせるよう支援している。</p>		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>職員の感覚ではなく、利用者の状況、状態に配慮し温度調節をしている。換気にも注意し、こまめに窓を開けたり空気の入替えを行っている。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>居室やフロアなど段差はなくし、トイレや浴室、廊下には手すりが設置され身体機能に応じた生活が出来ている。状況によっては車椅子も使用している。</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>わかる力を引き出してあげられるような声かけの工夫と対応を心がけ、全職員で共有し連携をとっている。</p>		
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>ベランダや中庭にはベンチがあり自由に日光浴などしたり、利用者同士で会話を楽しめるような作りを心がけている。鉢植えや花壇への水やりも出来るようになっている。</p>		

V. サービスの成果に関する項目	
項 目	最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある
	<input type="radio"/> ②数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> ③たまにある
	<input type="radio"/> ④ほとんどない
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
94 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> ④ほとんどできていない

そまやまの里(かえで)

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="checkbox"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="checkbox"/>	②数日に1回程度
		<input checked="" type="checkbox"/>	③たまに
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="checkbox"/>	①大いに増えている
		<input checked="" type="checkbox"/>	②少しずつ増えている
		<input type="checkbox"/>	③あまり増えていない
		<input type="checkbox"/>	④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input checked="" type="checkbox"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input checked="" type="checkbox"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input checked="" type="checkbox"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者さん各自の生活のリズムを尊重し、今までと変わらない生活を送っていただけるように、居室掃除・買い物・食事・入浴など共々に共有し、自発的に参加できるように働きかけ日常生活の中での行事やレクリエーションなどを考え、家族との交流を大切にしながら生活のリズムを作っていく努力をしています。

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	○	地域に対しても何らかの方法で理解して頂けるように取り組んでいけたらと思う。自治会回覧などに積極的に働きかける等
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	近隣の方が気軽に立ち寄る事が出来る様な関係を作れたら良いと思う。行事をお知らせし一緒に参加して頂くなど
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	地域の行事などもっと参加出来る事があれば進んで参加していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価を実施し問題点を管理者、職員で話し合い改善に向け取り組んでいる。	○	より良く理解するためにも具体的な報告や説明する機会を設けより良い改善が出来る様取り組んで行く
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	H19年度より実施する事が義務づけられておりH19年8月にケアマネ、民生委員、利用者、利用者家族を交え実施している。 今後も2～3ヶ月に一度のペースで会議を実施する。	○	会議内容を職員にも知らせ全員でサービス向上に活かせる様にしていく
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	主に管理者が行い質の向上に取り組んでいる	○	内容を職員にも報告し全員で質の向上に取り組むようにしていく
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修等学ぶ機会は持たれている。家族等には管理者からの説明により情報提供されている。	○	職員全員が理解できる様に管理者からの説明の機会を設ける
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンス時に市配布のパンフレットや各著書からの抜粋文などを参照し話し合いを設け防止の認識を学び防止に努めている	○	今後も話し合いを継続していき確認し認識を高め、見過ごされる事のないようにしていく

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が家族との十分な話し合いを行っており、理解・納得は図られている	○	家族より職員に内容を尋ねられた時には管理者を介して伝えてもらい不安や疑問に対応していく
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の利用者との関わりの中で本人の意思を探る努力は成されている。不満、苦情、意見を訴えてきた際は管理者、職員で話し合い検討し対応している。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時等常に現状を説明している。暮らしぶりや季節毎の行事、様子など定期的に伝えている。(ホーム発行里だよりなど)		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	二ヶ月に一度家族会を実施しており、家族同士での意見交換が出来る仕組みを作っている。苦情、要望に対し話し合い質の向上に努めている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度のカンファレンスの中で話し合いや意見を述べる機会を設けている。利用者の受入れ、職員交代に対しての意見を述べる機会も設けられている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	24時間365日のローテーションが組まれており、夜勤専門ではなく日勤にも携わっており関わりは出来ている。夜勤者専門に関しても細かい送りの中で日中の様子がわかる様徹底されている。	○	現状では多少シフトに問題がある。余裕をもった人員確保
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	殆ど職員の異動はなく利用者が馴染みの管理者や職員により支援されている。又交代時には新職員との引継ぎ(育成)も期間を取り行われている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の分け隔てなく研修等参加している。研修内容等報告する場を設け職員全員で共有している。	○	外部の研修にも参加し、質の向上につなげていく
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互研修の実施がなされておりサービスの向上に努めている	○	地域の同業者と相互訪問の機会をより多く持ちたい
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩する場所を設けられており、利用者と離れて休憩が出来る様に配慮されている。問題点があれば話し合いの中でそれに向けての対応に努めている。	○	職員一人ひとりのメンタルケアをサポートするシステム作り
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	労働基準法に基づき労働条件が整えられている。日勤従事者は年に一度、夜勤従事者は年に二度の健康診断を行い対応されている。	○	各職員がやりがいや向上をもてる様なコミュニケーション作り
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	不安、苦しみなどを理解し状況を把握した上で利用者本位である事、安心して生活できる事を第一に関わりを持ち信頼関係を深めている。	○	良く耳を傾け聞くゆとりの支援を行い、より良い信頼関係を築ける様努めていく。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の要望、希望を聞き話し合いを設ける事により信頼関係を作る様に勤めている	○	不安、意向などにも耳を傾け改善に努めより良い信頼関係を築く様勤めていく

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の対応と見極めは管理者が行っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービスを利用するにあたり管理者より説明がなされ、徐々に馴染める様に職員は雰囲気作りをし家族にも協力を得て工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	得意分野(料理、庭の手入れ、洗濯たみ、掃除など)での力を発揮していただき職員とともに過ごし支えあう関係を築いている。	○	遠慮がちにならない様に声かけにてお願いし、支え合える事柄を増やして行く様に勤めていく
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族のこれまでの介護を共感し、共に意見交換をしながら一緒に支えていく関係を築いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	職員や管理者が本人と家族の間に入り話し合いながら良い関係が築いていける様に努めている。	○	関われる場面や機会を多く設け支援していく
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話や手紙での連絡を取り持っている。また知人の訪問や馴染みの店などの継続出来る範囲で支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係が悪くならないように職員は注意をはらい、些細な事でも申し送り孤立させない支援に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	手紙のやり取りや連絡を管理者が行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランを作成し、希望意向を把握して日々の行動や表情を汲み取り把握できるように努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴の記録や家族からの情報によりこれまでの暮らしの把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ひとり一人の一日の生活リズムや変化を記録し現状把握出来る様に努めている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	個々にプランを作成しており変化に応じその都度見直しを行い、利用者主体の暮らしを反映したプラン作成をしている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	変化が生じた時はすぐに見直しを行い、管理者、職員、家族と話し合い現状に即した計画を作成している		

そまやまの里(けやき)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日勤帯、夜勤帯にて日誌に個別に記録しており、日々の様子や状態等も押し送りやミーティングで情報を共有し実践や計画見直しに反映されている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	今の段階では行っていないが、地域や他からの要請があれば対応していく予定		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアや消防の方がホームにこられ協力を得られている		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	管理者が行っており内容は把握出来ていない		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	管理者が行っており内容は把握出来ていない		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に(二週間に一度)往診の医師にきて頂いている。又利用者の希望により他の病院受診も行っている。		

そまやまの里(けやき)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医はいないがかかりつけの医師に指示を仰いでいる		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	かかりつけの医師に指示を仰いでいる		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	管理者が行っている		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時に管理者による説明、話し合いにより共有されている		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	今の段階では重度、終末期の利用者はいないが、チーム支援に取り組み、変化に備え検討や準備がされている		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	十分な話し合い、情報交換を行いダメージを防ぐ事に勤めている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの個性に合った言葉かけと対応に配慮している。個人情報は所定の場所に保管している。	○ プライバシーの確保の徹底には細心の注意をしていく
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	なるべく本人の意思を尊重し、必要に応じ個々に対応したり、納得した上で決断出来る場面を作る様に支援している	○ 利用者が遠慮することなく希望を表せる様に働きかけ支援していく
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のリズムで日々の暮らしが送れる様に支援していく	○ 利用者の生活ペースの優先に努める
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理容師に来てもらい散髪をしたり、希望に応じ利用者の望む美容室でパーマをかけたりされている	○ 普段の身だしなみで不十分な点はさり気なく声をかけたり直したりし支援していく
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みの物を献立に取り入れ食事を楽しんで頂いている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	健康状態を考慮した上で本人が望む好みのものを日常的に楽しめる支援をしている	

そまやまの里(けやき)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	ひとり一人の排泄パターンを把握し本人の生活リズムに添った支援を行っている。生活リズムが取れない利用者には定期的に声をかけ誘導している		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	なるべく本人の希望に添えるように支援している。毎日入浴の方、一日置きに入浴される方など優先順位をつけ支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	安定した睡眠が取れる様に個々の状態、状況に合わせて休息を取り入れている。	○	不眠の原因の見極めに力を入れ、医師、家族と連携をとり支援していく。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの個性や得意分野を把握し張り合いのある日々を過ごせるように支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にホーム側で管理している。希望に応じ使えるように支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食材の買出しや散歩など支援されている		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ホームでの外出行事に家族同伴で出かけたり、個別に外出を計画し本人の希望する場所に行けるように支援している。	○	家族と共に出かけられる外出の機会が持てる様働きかけて行く

そまやまの里(けやき)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が直接かけたり、希望があれば職員が取り次いだりしている。また手紙のやり取りや電話の受け継ぎも支援されている		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	常時来訪していただける様な体制になっており、居間や居室などゆっくり過ごしていただけるよう配慮されている		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が理解しているとは解からないが、拘束をしないケアに取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけずに対応しケアに取り組んでいる	○	所在の確認の徹底を心がけているが、状況に応じ一瞬鍵をかけることもある。利用者本位の対応の仕方を考えて行く。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員間で声かけの徹底を行い、利用者の所在や様子を把握できるようにし安全に考慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意が必要な物品の管理保管は職員が行っており、使用可能な利用者には使用後は元の場所に戻して頂く様声かけを行っている。使用の際は職員が把握し危険防止に取り組んでいる。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止の取り組みがなされている。事故が生じた場合はすぐに報告し記録後に申し送りなどで防止策を検討している。		

そまやまの里(けやき)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急救命報法の学習、講習を定期的に行っている。	○	さらに急変に備えての学習、訓練を行っていく必要がある。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練を定期的実施している。防災頭巾、ヘルメットを常備している。	○	非常食、備品等の備えをしっかりと行い、日頃の職員同士の取り決めを行う。地域の方への働きかける工夫をする。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	リスク対応に関する説明は管理者が行っているが、起こりうるリスクに対しては管理職、職員で対応策などを定期的に話し合っている。	○	常に見直しを行い、個々に見直しを行っていく
○				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々の様子を見て体調の変化や異常を見逃さない様に心がけている。毎日のバイタルチェックを行い記録話し合いの中で発見に努め対応に結びつけている。	○	今以上に健康管理に気をつけていく
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の説明書が日誌に綴じてあり、職員は目的、用途など把握できるようになっており症状などの変化を記録している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分摂取や繊維質の多い食べ物等で調整している。又歩行や体操など体を動かせることを働きかけている。薬剤使用時には服用量や日数など工夫している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアを行っている。介助を要する方にはその方に応じた対応をしている。液体歯磨きなど		

そまやまの里(けやき)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の申し送りの中で食事量は把握する事が出来ている。特定ではあるが水分量のチェックを行い記録している。	○	バランスを考え献立を作成しているが、専門家からのアドバイスを定期的に受けられる様にできたら良い。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対する対応マニュアルが設置してある。インフルエンザ予防接種は利用者、職員全員毎年受けている。	○	利用者、職員だけではなく来訪者時に対しても予防の為に手洗い、うがいの徹底を行っていく。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具は必ず殺菌消毒を行い、冷蔵庫内の食材は整理をこまめに行い使用期限を考慮し、献立内容を変更するなど工夫し食材を使い切っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物周辺には植栽や季節の草花が植えてあり、中庭にはベンチやパラソルを立て育てた花を楽しむ事ができ明るく暖かな雰囲気作りをしている。	○	季節毎に花を飾り育て暖かな雰囲気づくりに努めていく。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節毎に壁面には写真や飾りを施し季節感を味わっていただいている。また生花や鉢植え、観葉植物など飾られており空間づくりに配慮されている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ、ベンチ、腰掛、長いすが設置されており利用者の方は自由に利用されている。喫煙所も設けるある。	○	ひとりの空間、居場所がもう少し増やせる様工夫していく。

そまやまの里(けやき)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が利用してきた馴染みのものを居室に据え安心して過ごせる工夫がなされている。	○	引き続き安心して気持ちよく過ごせる居室の配慮をしていく
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	掃除時や必要に応じ空気の入替えを行い、利用者の状況に応じ温度調節に配慮している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ひとりひとりの身体機能を活かした環境作りは難しいが安全かつ自立した生活が送れるように工夫されている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	共有部分の表示を明確にしておき、ゴミの回収や傷の修復をし混乱を避ける工夫をしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭にベンチが設置され、日光浴や花壇の手入れ、草花を眺めて楽しめる。	○	もう少し活動出来るものを検討する

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
		<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
		<input type="radio"/>	③たまにある
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
		<input type="radio"/>	②家族の2/3くらいと
		<input type="radio"/>	③家族の1/3くらいと
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

そまやまの里(けやき)

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
		○	③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・チームケアの実施